

株式会社雪平工務店

紙ベースで行っていた仕切書発行作業をシステム化、
属人的な業務を減らす仕組みを構築

仕切書発行業務の作業時間を大幅に削減、
データでの仕切書管理と送付により作業負担を軽減

1 従来の課題

Task

当社は建築物の重要な土台作りを担う型枠工事を専門に行っている工務店であり、建設現場での仕事がメインですが、限られた社員で現場作業と事務業務を掛け持ちして行っています。月次の請求処理は、ほぼすべてが紙ベースの書類で、取引先毎にフォーマットや単価が異なるため、慣れた社員でないと対応が難しく、請求書の確認は長年担当してきた工事現場管理者が行ってききました。具体的には各協力業者からの請求確認・査定・請求書発行など、紙ベースの書類で管理するため効率が悪く、1週間程度の時間を要しており、本業である現場巡回や他の業務に支障が出ていました。

また、特定の職員しかできないという属人的な業務を減らし、他の従業員でも従事できる仕組みを構築したいと考え着手しました。



従来、紙ベースで管理していた台帳

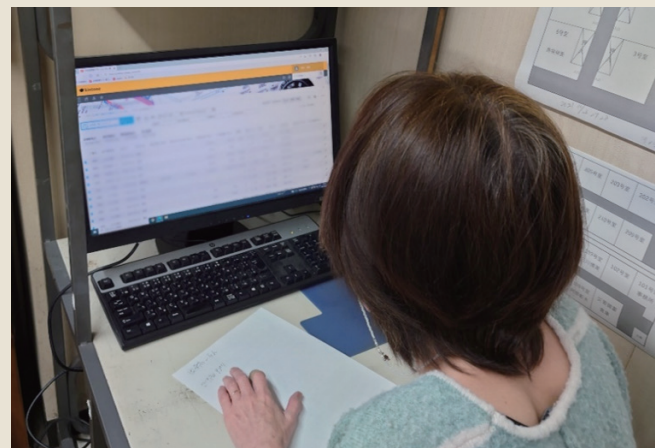
2 取組概要

Approach

それまでExcelや紙ベースで行っていた管理をサイボウズ社のkintoneへ移行し、それまで「Excelで作成」→「確認」→「出力」していたプロセスを、確認作業のみに省力化しました。

従来、Excelで作成したものを紙に出力し、さらに再入力が必要となるシーンもありましたが、仕切書に関係する業務用のデータベースを構築することで、そのまま別のExcelシートに関連するデータを転記できるようにしました。

請求書発行業務も、それまではすべての作業（内容の精査、端末への入力、査定）を担当者1名で行っていましたが、作業負担の平準化のため複数の担当者で作業を行える体制とすることができました。また、まとめた書類を元に、経理担当者が手書きで仕切書を発行していましたが、最初に入力したマスターデータがシステム上で連動し仕切書が自動発行されるようになり、さらなる省力化が実現しました。



COMPANY PROFILE

- 業 種 建設業
- 事業内容 型枠工事
- 創 業 1957年
- 代 表 者 代表取締役社長 雪平 尚希
- 所 在 地 川崎市中区宮内4-4-3
- 従業員数 35名

<https://yukihira-koumuten.com>


昭和32年創業以来、神奈川・東京を中心に
受注型枠工事を行っています

株式会社雪平工務店



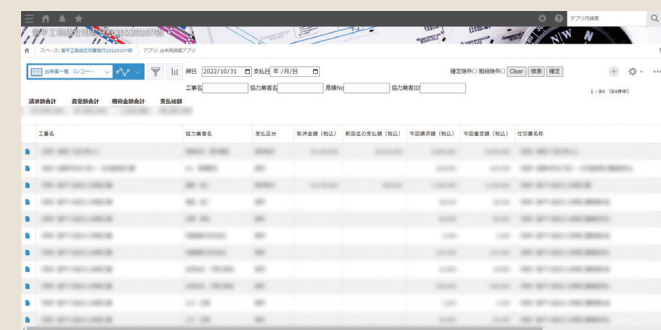
3 実施効果

Effect

新システムの導入により、それまで1週間程度要していた仕切書発行に関する作業時間を大幅に削減するとともに、システムで自動化することで入力ミスや作業工程の省力化を実現できました。

データでの仕切書送付（主要取引先の45%）および転記処理が可能となったことで、一連のデータ連携もシステム上で実施できるようになり、作業負担の平準化がなされました。

これらの取組により、紙による管理の削減、システム化によるデータの一元管理、蓄積がなされ、過去の取引実績などのデータを探す手間の削減にもつながっています。



kintone導入により構築されたデータベース

新システム導入による効果

仕切書発行業務に関する作業削減時間数

1月あたり 35時間 → 12時間

社員の声

請求書処理の締切時期など経理・事務作業でオフィスに缶詰になることもありましたが、システムの導入で生じた余剰時間で現場管理をより徹底することで、現場工事の安全確保・向上につながりました。

今後の展開

今後本システムで行える業務を増やすことで、さらに成果が生まれると期待しています。今回は全体業務の一部分をターゲットにシステム導入を行いました。機能（アプリ）を必要に応じて増やせるというkintoneの特性を生かし今後さらなる効率化を目指していきたいと考えています。

まず、弊社が率先して本システムを活用し、そのノウハウを同業他社にも共有できれば業界全体の生産性向上にもつながるものと考え、そういった波及効果も踏まえ自社のシステム化に今後も取り組んで参ります。

ひらめきポイント・経営者の気づき

今回の取組は、企業が組織として前に進んでいくための基盤を培っていくことを目的として着手しました。今後の経営環境を考えると、組織としてのキャリアアップ、具体的にはIoT活用、デジタル化の流れは避けられないと感じています。

この取組を通じて、現在のコロナ禍に限らず、BCPの要素もふまえ様々なリスクに対応できるような組織の強化に向け、多様な働き方に対応していく必要性の気づきにもつながりました。将来的には、「社内の情報共有や管理業務のためのオフィス」という概念がなくても仕事ができる、パソコンやタブレットで管理できるような姿を理想像として描いています。

こうしたソフト面での対策を進め、作業効率、生産性の向上を図ることで、建設業の中でも型枠工事という業種の認知度の向上にもつながると信じています。

業界によって仕事の段取りが違うため、働き方改革の進め方にも違いはありますが自社の取組が将来的に業界をリードする改革につながっていくことが望ましいと考えています。

代表取締役社長 雪平 尚希

